

尚徳寮

令和4年3月24日

鳥取大学附属中学校

No. 10

第74回卒業証書授与式

3月11日、鳥取大学附属中学校を母校とする136名の卒業生が巣立っていきました。感染症対策を優先した卒業式でしたが、最後に無言で保護者の皆様に心を伝える一礼をする卒業生に、大きな成長を感じました。式辞を全文掲載いたします。



式 辞

静かな里山から春を告げる鳥たちの鳴き声が聞こえ始めました。穏やかな春の日に令和3年度第七十四回鳥取大学附属中学校卒業証書授与式を挙げることができましたこと、心より嬉しく思います。卒業証書を手にした一三六名の皆さん、そして保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。



皆さんの脳裏には、附中での思い出が駆け巡っていることでしょう。緊張の面持ちで迎えた入学式、必死で登った船上山、みんなで練習した運動会や文化祭、夢中で頑張った部活動など、友と一緒に過ごした時が思い出されることでしょう。新型コロナで多くの制約を受けた二年間でしたが、修学旅行では、ふるさと鳥取の良さを知る機会に恵まれました。

卒業という人生の節目を迎え、これまでいつもあたたかく見守ってくださった家族の皆さんに、学校生活の様々な場面で支援してくださった先生方に、そして切磋琢磨しあった友達に感謝しましょう。

私は3月に出版された中塚武(たけし)さんの著書「気候適応の日本史：人新世をのりこえる視点」を大変興味深く読みました。文系の歴史学・考古学の研究者と理系の地球科学・気候学の研究者とが融合して、今、新たな歴史の見方が生み出されています。

名古屋大学の中塚さんは古気候学の研究者です。古気候学とは気象観測が始まる前の気候をいろいろな手法で復元する研究分野です。例えば樹木の年輪の幅を用いた古気候の復元などです。中塚さんはさらに年輪の酸素同位体比を調べる新しい手法で研究を飛躍的に発展させました。そして過去2600年間、つまり弥生時代から現在に至る気候情報を、なんと年単位で、しかも切れ目なくシームレスに明らかにしました。



この膨大なデータからは、数年単位の短期的な変動から、数100年～千年単位の長期的な変動まで読み取ることができます。例えばこの冬の大雪は、ラニーニャ年として予想されていましたが、このラニーニャ・エルニーニョは数年単位の短期的変動です。このような短期的な気候変動に対して人間は、しっかりと対応できます。また数100年～千年単位の長期的変動に対しても社会として適応可能です。

ところが中間の数10年単位の中期的変動に対して、人間社会の弱さが明らかになりました。温暖な時期が20～30年続くと稲は豊作が続き、人々は豊かな生活をしばらくの間、享受します。しかし引き続いて生じた寒冷化による凶作では、大飢饉となり、社会が不安定になりました。例えば今年の大河ドラマの舞台、平家一門が栄えた1150年代～60年代の20年間は温暖で豊作でした。1170年代に入り寒冷化が起これ大飢饉となり、ついには平安時代から鎌倉時代へと変わりました。中世の応仁の乱も、近世の大飢饉も同じ状況でした。年単位といった高分解能の気候データが作られて初めて、気候変動と日本の歴史との突合せが可能となりました。社会の変革期は、中期的な気候変動の激化の時期に一致していました。東アジア中国においても同様でした。



中塚さんは、歴史学や考古学の研究者とともに、なぜ人間社会は数10年という中期的な気候変動に対して脆弱なのかを考えられています。文系理系の融合が成功した典型例として、感銘を受けました。



君たちは地球市民として生きる世代です。長い人生、決して焦る必要はありません。自分にしかできない道を見つけ、着実に歩み続けていただければと願います。それぞれの分野で専門性を高め、磨いていってください。そして将来、他分野の人と融合し、さらに大きな成果を生み出してください。きらりと光る多様性が交わってこそ、新たなものが創造され、人類の英知が生まれます。期待しております。

この先、皆さんには、多くの出会いが訪れます。全て偶然の産物であり、また必然でもあります。道を探すきっかけは、様々な出会いにあります。人との出会い、本との出会い、芸術との出会い、これらを大切に、人生を豊かに歩んでください。

最後になりましたが、保護者の皆さま、本日はお子さまのご卒業、まことにめでとうございます。たくましく成長した姿に感慨ひとしおであろうかと拝察いたします。この三年間、本校の教育・研究にご理解をいただき、多くのご支援を賜りましたことに対しまして、心より御礼を申し上げます。



卒業生の皆さんが、これからの日々を、健やかに、たくましく、夢を持って、成長してゆかれることをお祈りして、私の式辞といたします。

令和四年三月十一日 鳥取大学附属中学校長 小玉芳敬

